

中央病院の最近の取組み

注：括弧内は、平成28年度の実績です。

1 高度急性期医療体制の整備

- (1) 現病院の老朽化、狭隘化に対応するとともに、進歩する医療に対応し他の医療機関では対応が困難な高度・先進医療を提供するため、「新病院建替整備基本計画」に基づき新病院整備を進めている。
- (2) 災害拠点病院としての役割を果たすため、引き続きDMAT(災害派遣医療チーム)等の基盤整備を継続している。(4月に熊本地震及び10月に中部地震に派遣)

2 人材の確保と育成

地域の基幹病院として高度・先進医療を提供する観点から、医師・看護師などのメディカルスタッフの更なる充実と専門性を高める取組の強化。(対前年度 医師5名増、看護師28名増(非常勤職員を含む。)、認定看護師2名増)

3 連携と協働の拡大

- (1) 地域医療支援病院として、回復期、慢性期の医療を提供する医療機関との連携(病病、病診連携)による地域連携パスをさらに充実するなど、圏域で連携した医療システムの構築を目指している。(地域連携パス適用327件、対前年度38件増)
- (2) 圏域内外の急性期病院とも、互いの重点分野を踏まえつつ医師の相互派遣等を含め、連携を一層強化している。(診療援助受入438件 対前年度107件増)

4 医療情報の活用

- (1) 医療の高度化に対応し、医師の負担軽減等のため、費用対効果を踏まえつつ、ICTの導入充実の推進。(ペーパーレス化開始)
- (2) 電子カルテに蓄積された医療情報を統計的に分析することを通じて、医療の質と経営効率を同時に高める取組の実施。(栄養食事指導の徹底など)

5 働きがいのある職場環境づくり

- (1) 職員の研究・研修、キャリアアップの取組を支援している。
- (2) 職員の子育て支援のための院内保育所の活用(39.9人/月 対前年度5.4人増)、看護師の夜勤専従の取組等の職場環境づくりを推進している。

6 県民理解の推進

県立病院として県民の理解は重要であり、ホームページや市民講座(4回開催 参加延457人)などを通じての病院の機能、活動等を広報する。

7 健全経営の確保

- (1) 医薬品・診療材料の共同購入を進める等、費用の節減を進めている。
- (2) 新病院建設、医療機器など、将来を展望した投資にあたっては、ニーズの把握と確実な経営推計のもと、計画的に対応している。